



四万十町
町内 **ぶら〜り** 散策

川 かわ

奥 おく



米 ノ川地区とともに
米奥を構成する川
奥地区は、米ノ川地区か
ら、四万十川の西岸に
沿って走る県道322号
を少し南に行ったところ
から西に入った集落であ
る。

川奥地区に入ってほど
なく、右手に白河神社が
ある。この白河神社は、米
ノ川地区にあった河内神社と、川奥
地区にあった白皇神社を合祀してで
きた神社で、両地区にとつての氏神
さである。

川奥といえば、県指定無形文化財
の花取り踊りである。この花取り踊
りは、獣害に苦しむ農民たちが、山の
神に祈願するために踊り始めたもの
と伝えられている。この川奥とい
う地区は、その背後にそびえる枝折山
から流れ出る水によって、早くから
農地として開墾されていた。南北朝
時代に、南部氏が奥州からこの地に
やって来た時には、すでに一定の生
産活動がなされていたと思われる。
この地域は谷間にあるため、獣害も
かなりのものであったようで、戦国
期になって、農民たちは、とうとうこ
の獣害対策を、当時の「お殿様」に願
い出ることになる。

戦国期にこの地を支配していたの
は、仁井田五人衆の西氏であるとさ
れている。その西氏と友好関係の
あった、五人衆の中で最大の勢力を



河内神社と白皇神社を合祀した白河神社

誇る窪川氏の当主に対して、川奥地
区の農民たちが、それまで慢性化し
ていた獣害被害への対策を陳情した
のである。当主は、その願いに応える
ため、たびたび猪狩りや鹿狩りを実
施。おかげで、積年の悩みであった地
区の獣害は劇的に減少したという。
地区の農民たちはこのことにたいへ
ん喜び、当主である殿様を招いて、感
謝の花取り踊りを踊ったという。一
説では、これが現在の花取り踊りの
起源ともいわれているが、それより
もずっと昔から続いていたという説
も有力であり、確かなことはわから
ない。

川奥の花取り踊りは、太太刀を
持った踊り子が烏毛を、小太刀を
持った踊り子が烏帽子をかぶって、
袴姿で輪になって踊る。数年前まで
は、山の中腹にある祠で、踊りが奉納
されていたが、現在では、麓の集会所
に祠を移し、そこで伝統の踊りが継
承されている。川奥には、現在、30世
帯、65人が暮らしている。

町のうごき

(1月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,271	-8	男 4	20	14	6
女	9,233	-14	女 4	21	17	14
計	17,504	-22	計 8	41	31	20
世帯数	8,562	-12	(1月中の届出)			
窪川地域	12,320人		大正地域	2,481人	十和地域	2,703人

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	2月6日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	0.369
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.05
化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以下

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信

2018.3月号

Vol.144 (毎月10日発行)

●発行／四万十町企画課

●印刷／窪川印刷

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

☎ (0880) 22-3124

FAX (0880) 22-3123

UD FONT
by MORISAWA

本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。